

II-1 調査と研究

飛鳥藤原京の発掘調査

10月18日 飛鳥藤原第93次（飛鳥池遺跡）花谷 浩
3月13日 飛鳥藤原第95次（吉備池廃寺）西口壽生

飛鳥藤原宮跡発掘調査部が1998年度に実施した発掘調査は、藤原宮跡5件、藤原京跡4件、飛鳥地域等15件である。学術調査は吉備池廃寺（桜井市教育委員会と共同）1件で、ほかは諸工事に対する事前調査である。藤原宮・京跡の調査件数が少ないのは、1996年度から続く（仮称）万葉ミュージアム建設に伴う飛鳥池遺跡の調査に力を注いだためである。以下、主要な調査を概観する。

藤原宮跡では、西北官衙地区（第94次）、西面南門（第96次）の調査を実施した。西北官衙地区は遺構が希薄で、官期の小規模建物3棟の検出にとどまった。西面南門は、西面大垣柱穴列が途切れる約30mの間に位置すると推定される。

藤原京跡では、右京八条一坊（第90次）で、坪内の建物遺構6棟の他、西一坊坊間路東西両側溝を検出した。

飛鳥寺では、万葉ミュージアム建設の事前調査（第97次）で、寺城南辺東半の大垣と外周道路を検出した。

飛鳥池遺跡では、前年度から継続の谷南奥部（第87次）で、工房址下層の状況を確認し、古墳時代の竪穴住居跡等を検出した。また谷中央部（第93次）では、谷口近くに3時期の塀と石敷き井戸、東岸に飛鳥寺東南禪院所用瓦の焼成窯、100基以上の工房炉跡群等を検出した。谷には炭主体の工房廃棄物が分厚く堆積し、ここから70点以上の「富本銭」が出土して、和同開珎に先立つ「最古の铸造貨幣」として注目を集めた。廃棄物層は全て土囊詰めを取り上げ、洗浄・選別を行っている。

吉備池廃寺（第95次）では、西面回廊と推定中門の調査を行った。推定中門位置に中門は検出されず、南面回廊が連続しており、伽藍配置の復元に課題を残した。

なお、発掘調査にともなう現地説明会を以下の通り実施した。 （長尾 充）

4月26日 飛鳥藤原第87次（飛鳥池遺跡）小澤 毅